保健領域「けがの防止」における
ティーム・ティーチング（TT）の活用

野原魁人　（　鳴門教育大学　）

１．目的

本研究の目的は，保健の授業で技能を伴う「けがの防止」についての分野を TT で教えることについての教師の考えを明らかにすることである．

２．研究方法

１）対象者

現在，小学校に勤務する教師かつ技能を伴う教科で TT を行った経験がある小学校教諭 4 名（学級担任 2 名，養護教諭 2 名）

２）調査方法

2023 年 11～12 月に，半構造化面接法を行った．得られたデータから逐語録を作成し，質的記述的方法を用いて分析した．以下，カテゴリー名を【 】，サブカテゴリー名を〈 〉で示す．

３．結果および考察

学級担任において，【2 人で行う良さ】として，〈支援の手厚さ〉，〈専門家と行う意味〉，【TT への理解不足】として〈学習内容の把握〉，〈見られているというプレッシャー〉，【TT を行う上でカギとなること】として，〈事前準備の重要性〉，〈T1 と T2 の役割分担〉，〈児童の実態把握〉，【TT を行う上での壁】として，〈時間不足〉，〈教師不足〉，〈養護教諭の授業参画の機会のなさ〉，〈保健の授業に対する考え方のちがい〉の 4 カテゴリーおよび 11 サブカテゴリーに分類された．

養護教諭において，【学級担任と協力する良さ】として，〈多角的な視点〉，〈学習内容と生活の結びつき〉，〈授業後の継続した指導〉，【専門性の発揮】として，〈専門家の授業への参加が児童へ与える良い効果〉，〈専門家の授業への参加〉，【TT を行う上でカギとなること】として，〈教師間の考え方の相違〉，〈事前準備の重要性〉，〈TT を行いやすくする学校体制の構築〉，【TT を行う上での壁】として，〈養護教諭の考え〉，〈養護教諭の授業機会の少なさ〉，〈保健室の運営との兼ね合い〉の 4 カテゴリーおよび 12 カテゴリーに分類された．

TT を行う効果として，支援の手厚さを感じるだけでなく，養護教諭の専門性を活かした授業を，学級担任が生活に結びつけることで，児童が授業後も継続して学ぶことができると感じていた．他方で，TT に関わる現状について，T1 と T2 の役割分担が十分に出来ないことや，T2 の教師に評価されているというプレッシャーを感じた者もみられた．

保健領域「けがの防止」では，実習を通して技能を習得することが求められている．これに関し，TT を用いることで，個別指導が可能になることから，児童の技能に対する自信に繋がり，保健室の利用状況が落ち着き，養護教諭が TT に参画しやすくなるという良いサイクルが生まれる可能性があると考えていた．一方，養護教諭は T2 に入るものというような姿勢が見られた．保健の専門性を持つ養護教諭は，兼職発令[1)]によって授業を担当することからも，T1 と T2 で授業ができるよう準備をしておく必要があるだろう．また，「けがの防止」で必要になる技能は，学校生活の中で指導できるものであり，TT を用いて教える必要はないというような考えも見られた．このことから，教員養成課程において，学習内容への理解や実際に技能を教える際の模擬授業などを行うなど，より一層の指導の充実が図られる必要があるだろう．

４．結論

本研究では，保健の授業で技能を伴う「けがの防止」についての分野を TT で教えることについての教師の考えを明らかにした．その結果，TT 活用による指導の効果を感じる一方，担当できる教師や時間の不足，TT がプレッシャーになるなどの課題も見られた．保健領域「けがの防止」において TT を活用するためには，教師の学習内容への理解，教師同士がコミュニケーションを取れる時間の創出，それらを積極的に導入できるシステム作りを行う必要があると思われた．

５．主な参考文献

１）文部科学省：教員職員免許法 平成 10 年